

# かささぎ



北京日本人学校  
学校通信 第4号  
平成28年7月16日  
校長 奥田 修也

## 1 学期の「教育推進の重点事項」についての反省

北京日本人学校校長 奥田修也

もうすぐ1学期の教育活動が終わろうとしています。保護者の皆様のご支援ご協力により、計画通りに進めることができました。本当にありがとうございます。

ここで、本校の「28年度教育推進の重点」

多様で変化の激しい社会を生き抜く確かな学力と豊かな心を育み、新たな価値を創造する人材・グローバル人材の育成を目指し、児童生徒・保護者・邦人社会の信頼と期待に応える学校づくり

と、その下位目標の内容に沿って簡単ではありますが反省と報告をさせていただきます。

### 1 学習指導

(1) 在外教育施設の特性を生かし、創意に満ちかつ適切な教育課程を編成し実践する。

#### ① 授業時数の確保と教育課程の適切な運用

チャイムで始まりチャイムで終わる。どの教員も45分間をしっかりと使って授業を行っています。小学部4年生以上は週2回7時間授業の日がありますが、しっかりと学習できています。紅色警報のこともあり本校は特に時数確保に留意が必要です。

#### ② モジュール学習の時間の計画的活用

読書以外に算数・数学のミニドリルや国語の言語事項（漢字等）の練習学習・定着学習に毎朝15分ずつ使っています。現在学習している単元と連動した内容であり、しかも担任がについての一斉学習時間ですので、充実した内容になっています。

#### ③ 交流活動、体験活動を通じた現地理解の深化

1年生：リド公園での自然観察（生活科の観察学習）  
2年生：四得公園での夏探し（生活科の観察学習）  
スイカ農園での観察と収穫体験  
3年生：学校周辺の探検（リドエリア、周辺地図作り）  
4年生：北京市自来水博物館で上水道に関する学習  
5年生：韓国国際学校との文化交流  
6年生：盧溝橋・周口店見学（歴史学習）  
中学部：修学旅行での学校間交流、見学  
それぞれが学年に応じ事前学習→観察・体験→事後のまとめという一連の学習を計画的に行いました。これらの行事は子どもたちの学校生活リズムの確立にも重要です。

#### ④ 英会話、中国語教育の充実

英会話は3名の男性講師に鈴木教諭が加わった4名による週1回のミーティングにより、カリキュラムや教授メソッドを確認しながら進めています。小学部5年生以上は習熟度別のクラス編成で、自分の力に合った学習ができています。また、4年生以下は、安心感のもとで学習を進める方がよいという考えで、普段の学級のメンバーで学習しています。中国語については、語言センターから派遣の講師5名ですので、習熟度別の編成で確立されたカリキュラムに沿って楽しく学習しています。ただ、すでに家庭で中国語を使って生活しているお子さんには、物足りないときもあり、また、長くやっている割には進歩が遅いという声もないではありません。いずれにせよ、週1時間だけで、普段の生活で中国語を使う機会が少ない子どもたちにとっては、学習効果は限定的であるといわざるをえませんが、今後改善を考えていきます。

(2) 考える力を身につけ、意欲を高め、児童生徒自らが主体的に学ぶ授業を行う。

#### ① 基本的な生活習慣と一体化した学習習慣の定着

どの学年も、今年度は特に、まず学習に向かう態度を醸成することを重点に指導してきました。その結果、いつ、どの教室を回っても落ち着いた学習態度で一人一人が精一杯の学習を展開しています。立ち歩きなし、姿勢の乱れなし、挙手も多く、発言も多く、豊かな発想で生き生きとした授業が行われています。この項目は教員の力量に大きく左右されますので、今後も定期的な校内研修を効果的に行い、資質向上を図っていきます。

## ② わかる喜びを感得させる授業づくり

2度の下校バス見送り業務がありますので、実際に教材研究をはじめとしたよりよい授業作りの時間は5時を過ぎてからになります。その時間でも学年部ごとに子どもの話題、指導方法についての話で盛り上がっている職員たちを見ていますと、校長として彼らに少しでも余裕を与えてやりたいと痛感します。

## (3) 学習の評価について、児童生徒、保護者に説明し理解してもらおう場を設ける。

説明責任だけではなく、結果責任も問われていることを前提と考え、中学部保護者の皆様に対し評価に関して説明を行いました。評価の観点並びにそれぞれの評価の考え方、設定する評価規準、評価方法及び評価時期等について適切に説明できたと考えています。

学校としての課題はまだまだまだたくさんありますが、夏季休業中に計画を見直し、2学期も教育に対するあつい情熱と冷静な判断、謙虚な姿勢をもって、子どもたちのために頑張りますので、変わらぬご支援をお願いいたします。

## 四得公園での夏探し

### 小学部 2年



6月29日に、生活科『まちたんけん 夏をさがしに行こう』の学習で、四得公園へ校外学習に行ってきました。公園へ到着すると、子どもたちは目をきらきらさせながら小さな花を見つけたり、生き物を見つけたりしていました。池の中には、メダカやオタマジャクシ、アメンボを見ることができ、子どもたちは夢中になって池をのぞき込んでいました。また、チョウチョやトンボを見つけては夢中で虫取り網を手追いかけしていました。そして、夏の公園だからこそできた発見を観察カードにたくさん書き込んでいました。学校へ戻る時間が近づいてくると、「まだ観察したい！」という声がたくさん聞こえてきて、学校へ戻る時間であることを伝えると本当に残念そうな表情をしていました。短い時間ではありましたが夏を探ることができ、子どもたちにとってとてもよい学習の時間となりました。



## 盧溝橋・周口店北京原人遺跡見学を終えて

### 小学部 6年

6月8日(水)、北京郊外にある「盧溝橋」「周口店北京原人遺跡」に、校外学習に行ってきました。あいにくの大気汚染にも関わらず、子どもたちの前向きな学習態度に感心しました。マルコ・ポーロにも絶賛された橋、清時代の皇帝乾隆帝も月を見に訪れたという橋、そして、日中戦争勃発のきっかけとなった橋、という様々な歴史的価値がある「盧溝橋」を訪れ、様々な思いを巡らせていました。1体1体違う獅子の顔を見て、自分のお気に入りの獅子を見つけている子もいました。次に、北京原人遺跡に行きました。原人が暮らしていた洞窟の見学では、小さな入り口から奥の洞窟に入るなど探検しながら、原人氣分を味わっていました。そして、博物館では興味深い展示物がたくさんあり、原人と現代人の頭蓋骨の違いに驚いたり、道具を作る知恵に感心したりとみんな興味津津でした。今回の校外学習で、北京でしか経験できない貴重な体験をし、歴史の学習にますます興味が湧いてきたようです。



ただいま 何人?